

質問事項

- ◆市民が安心して暮らせる為の地域医療体制は構築されているか
- ◆新型コロナ感染症対策

河野節子

ここのせつこ 議員

市民が望む
地域医療体制は
構築されているか



質問事項

- ◆新型コロナワクチンの接種
- ◆自転車を活用したまちづくり
- ◆奨学金制度

加藤裕太

かとう ゆうた 議員

ワクチン接種体制の
確実な構築を



問 接種の実施体制はどのように検討しているか。

答 市民の利便性を考慮し、市内の身近な病院、診療所での個別接種を主体とし、集団接種で補完する体制で調整しています。施設入所者や訪問診療を受けている人は、嘱託医や関係医療機関との協力で実施可能となるよう、香取都市医師会等と検討を進めています。

問 1日にどれくらいワクチンを接種できる想定か。

答 1日あたり個別接種で700回程度、集団接種で160から240回を見込んでいます。

問 接種に不安を感じる人も多いと思われる。ワクチンの効果や副反応等、正確な情報を提供し、不安を解消する必要がある。市として市民の皆さんに伝えておきたいことは。

答 国からの情報を受け、できるだけ速やかに情報提供していきますので、不確かな情報に惑わされず、国・県・市が発信する広報、ホームページ等を注意深く確認の上、冷静な判断により接種をお願いします。

**多様な自転車活用で
まちの活性化を**

問 国や県は自転車活用推進計画で自転車の活用を推進しようとしている。市もサイクルツーリズム等、自転車活用に力を入れるべきだと考えるが、見解は。

答 国や県は自転車活用推進計画で自転車の活用を推進しようとしている。市もサイクルツーリズム等、自転車活用に力を入れるべきだと考えるが、見解は。

問 地域医療を担う拠点病院である香取おみがわ医療センター、県立佐原病院と民間の病院や診療所との連携体制は。

答 令和2年6月にかとり地域在宅医療センターが県立佐原病院内に開設され、香取郡市内の民間病院や診療所とさらに連携が取れるような体制になっています。

問 行政と一体となった体制の整備は。

答 市では、平成29年度から在宅医療ネットワーク推進会議を設置し、医療、介護、福祉等の関係者からなる多職種連携に取り組んでいます。

**香取おみがわ医療センターの
独法化に疑問**

問 公営企業法の全部適用で病院経営が独立性を持てるようになってはいるはずだが、あえて独法化するメリットは。

答 現場レベルでの迅速な意思決定が行えるため、今まで以上に患者ニーズへの機敏かつ柔軟な医療サービスの提供が可能となります。また、より効率的な病院経営により、経費削減をしながら収支を改善することが可能です。

問 同センターの看護師離職率は5%と他に比べて低いが、身分が変わると大量退職のリスクがないか。

答 そのようにならないために、いろいろな待遇を今後検討していきます。

問 さまざまな課題等を踏まえ、自転車を活用した香取市らしい観光振興施策を検討します。

**移住・定住のための
奨学金活用を**

問 市奨学金貸付制度のこれまでの評価は。

答 平成27年度から貸し付けをこれまでの2倍の月額3万円にし、平成30年度からは周知のためのリーフレット配布を早めましたが、利用者が増加していないことから、今後はより利用しやすい制度になるよう内容を検討していきます。

問 地方移住・定住施策として、給付型奨学金の活用や返還免除等を検討すべきだと考えるが、見解は。

答 奨学金制度に関する補助金、その他有利な財源等の情報収集を行うほか、引き続き移住・定住施策の調査・研究を行っていきます。

問 行政改革は人件費の削減が主だが、病院事業は人的サービス提供の対価のため、人の増加により診療報酬が加算される。病院運営についても含め、独法化に対して職員全体の理解はできているか。

答 平成28年度に当時の病院長から職員に向けて話があり、職員の中でも理解をしていると考えています。

**コロナ感染症対策の情報提供
に工夫を**

問 個人情報の保護は無論だが、感染ルートや旧市町単位での発症情報等市民に身近な情報の提供はできないか。

答 市では、県が公表している情報を基に発生状況を周知しています。県の情報には、感染者の居住地は市町村までの住所しか公表されておらず、これは感染者の関係者特定による誹謗中傷等を防ぐための方針と聞いています。



地域医療を担う拠点病院である香取おみがわ医療センター



雄大な利根川沿いのサイクリングロード